

会 議 録

会議名	平成28年度 宇都宮市廃棄物減量等推進審議会
開催日時	平成29年2月21日（火）13：30～15：10
開催場所	宇都宮市役所14A会議室
出席者	【委員】金子和義，金子武蔵，塚原毅繁，中塚英範，渡辺通子，細田雅洋，浅海伸子，枝野悦子，島田弘二，伴マサ，石島孝夫，上野すみ子，山田修嗣，山室正志，熊本範章，大八木延子，小池貞雄 計17名 【事務局】環境部長，環境部新施設整備推進担当参事，上下水道局技術担当次長，環境部次長，環境部清掃事業担当副参事，環境政策課長，環境政策課総務担当主幹，環境保全課長，廃棄物対策課長，ごみ減量課長，廃棄物施設課長，廃棄物処理施設整備室長，農林生産流通課長，下水道管理課長，下水道建設課長，生活排水課長
公開・非公開	公開
傍聴者	なし
議題	1. 会長選出，職務代理者指名 2. 平成29年度宇都宮市一般廃棄物処理実施計画（案）について
会議結果	1. 互選により金子和義委員を会長に選出。金子和義会長が島田弘二委員を職務代理者に指名。 2. 事務局（案）のとおりとする。

主な質疑応答

平成29年度宇都宮市一般廃棄物処理実施計画（案）について

金子武蔵委員	食品ロスの削減については，宴会等の開始後10分，終了前10分を料理に専念するための取組が進められているが，世界規模の食糧不足が問題となっている中，給食の食べ残しや，コンビニの売れ残りからも相当量の食品ロスが出ていることから，学校や事業者との連携を強化していく必要があるのではないか。
事務局	小中学校においては，もったいない運動と一体的な周知啓発などにより，食べ残しは減少傾向にあることから，今後は，全市的な取組として浸透するよう，継続的な連携を図っていく。 事業者については，コンビニも含め，「もったいない残しま10！運動」などを通じた連携を図っており，食べ残しや売れ残りのさらなる削減に向け，今後も継続的に働きかけを行っていく。
浅海伸子委員	生活学校連絡協議会においては，食品ロスの「削減家計簿」を作成し，毎月決まった日に，直接廃棄や食べ残しの量を把握することで，食品ロスを削減するための取組を推進している。 冷蔵庫の中の点検や，賞味期限の確認，食材の無駄のない使い切りなどのチェック項目を設けており，市の広報とも連携できるよう，情報提供を行っていきたい。
事務局	市においても，同様の周知啓発を考えており，「削減家計簿」も参考にさせていただきながら，取組を進めていきたい。

島田弘二委員	剪定枝の資源化について、現在は南清掃センターに持ち込まれたものを対象としているが、時期によっては、剪定枝がごみステーションに大量に出されている状況も見受けられることから、ステーション収集も含めた今後の剪定枝の資源化の方向性について伺いたい。
事務局	平成29年度においては、南清掃センターで年間を通して回収を行い、資源化量の拡大を図っていく。 ステーション収集についても、資源化量のさらなる拡大に向けた次の展開として、手法等の検討を行っていく予定である。
島田弘二委員	資源物集団回収については、市からの報償金を自治会活動に有効に活用させてもらっているところだが、年々回収量は減少してきている。自治会や子供会など、各実施団体の工夫や努力が足りない面もあると思うが、報償金単価の増額についても検討をお願いしたい。
事務局	報償金の単価については、他自治体の状況なども踏まえ、設定しているところであり、今後は、各実施団体が積極的に集団回収に取り組み、さらには参加した地域の方々が取組に貢献したことが実感できるような仕組みについて検討を行っていく。
小池貞雄委員	紙パックや白色トレイの回収量が減少傾向にあるのは、分別が徹底されていないことが要因ではないか。紙パックは、すすいで、開いて、乾かして、ひもでしばって出すという作業が面倒であるため、焼却ごみに混ぜて出されていることも考えられる。リサイクルの量を取るか、質を取るかという判断になるかと思うが、もっと出しやすい方法であれば、リサイクルが進むのではないか。
事務局	ごみや資源物の出し方については、収集運搬や処理を円滑に行うためのルールとして協力をお願いしているが、リサイクルの技術革新などに伴い見直せるものがないか、検討を行っていく。 なお、紙パックや白色トレイの回収量が減少している要因としては、スーパー店頭等での資源物回収が進んでいることの影響も考えられる。
熊本範章委員	プラスチック製容器包装の中には、依然としてプラスチック製品が混ざっているなど、5種13分別が浸透していない状況が見受けられる。今年度、分別冊子が全戸配布されたが、すべての市民に情報が行き届いているかは疑問である。紙パックについても、内側にアルミが貼ってあるものは焼却ごみになることなど、関心の高い一部の人でないとわからないのではないか。わかりやすい周知を行うとともに、分別をわかりやすくすることが必要である。
事務局	分別がわかりにくい品目があることは認識しているところであり、今後は、プラスチック製品や紙製容器包装などについて、資源化や分別のあり方について検討していく。
中塚英範委員	事業系ごみが減少しており、取組のひとつに「大規模事業所に対する減量等計画書の提出徹底及び個別訪問指導」とあるが、減量等計画書の未提出事業者はどのくらいいるのか、また、ペナルティなどはあるのか。個別訪問指導の内容も併せて伺いたい。
事務局	減量等計画書の提出徹底に取り組んだことにより、提出率は100パーセントとなっている。この減量等計画書により、各事業所におけるごみの種類ごとの排出量や資源化の状況などを把握したうえで、2年に1回の訪問を行い、適正排出や資源化に向けた指導等を実施している。
中塚英範委員	資源物の回収量が減少しているが、ごみステーションからの持ち去りが要因のひとつではないか。持ち去りの量について把握しているのか。

事務局	<p>持ち去りへの対策については、市民や収集運搬業務委託業者からの情報などをもとに、巡回パトロールや早朝の張り込みを行い、現場を押さえ、警告書を出し、指導している。悪質な持ち去り者に対しては、禁止命令や告発を行っている。</p> <p>持ち去りの量については、把握が難しいものと考えている。</p>
中塚英範委員	<p>事業所には様々な種類があると思うが、業種別の指導などは行っているのか。</p>
事務局	<p>オフィスは紙ごみ、飲食業は生ごみなど、それぞれに多く出されるごみの種類に応じて、適正な分別や資源化に向けた指導を行っている。また、排出量が少ない中小規模事業所に対しては、共同排出など効率的な方法の紹介も行っている。</p>
上野すみ子委員	<p>地区の文化祭で環境部会のブースを出し、リサイクルに関する周知啓発を行っている。これまで、廃油からリサイクル石鹸をつくり、来場者に配布してきたが、作業負担に見合った啓発効果が得られていないように感じている。市では、廃食用油からBDFを製造しているということだが、リサイクル推進員が各地域で効果的な周知啓発を行うためにも、新たな資源化の取組などの情報を提供してほしい。</p>
事務局	<p>地区の文化祭などでのごみの分別やリサイクルに関する周知啓発活動については、実情にあわせて市職員を派遣することもできるので、内容の相談なども含め、ご連絡いただきたい。</p>